

青堀小学校校舎改築事業の建設計画(スケジュール)の見直しについて

青堀小学校校舎等の改築事業については、昨年度の検討委員会において、校舎・屋内運動場・プールをいちどきに建設する建設計画(スケジュール)をご説明いたしました。

しかし、大佐和中学校屋内運動場の緊急対応が必要になったこと、昨年来の建築資材の高騰に加え、防災や環境面など新たな学校施設に求められる機能に応じた整備が必要になっていることなどから、学校施設整備に要する費用が想定以上に増加しており、今後当初建設計画どおりに改築事業を進めた場合、当初に見込んだ改築費用を大幅に超え、今後の学校施設整備が困難となることが懸念されます。

このことから、建設計画(スケジュール)の見直しを行うものです。

① 事業費増嵩の要因

- ・青堀小学校、大佐和中学校、共同調理場の事業費集中
- ・資材費の高騰、労務費単価のアップ

建設資材物価は令和2年9月から令和3年1月までの15か月間に19.7%と約2割近く上昇(建設資材物価指数)しており、中長期的にさらに高騰すると見込まれている。

労務単価は10年連続で上昇しており、今後も上昇が見込まれている。

- ・新たに学校に求められる機能

特別教室や体育館への空調整備、照明のLED化への対応や学校施設のカーボンニュートラルの対応(太陽光発電装置の設置、高断熱化など)

② 事業費縮減方策の検討

- ・校舎体育館一体型の検討 ⇒ 事業費は変わらない(縮減にはつながらない)
- ・構造の検討 ⇒ 鉄骨造、鉄筋コンクリート造等、構造による事業費縮減効果は大きくない
- ・規模の検討 ⇒ 事業費縮減には建築面積を見直すことが大きいですが、現状基準面積により算出しており、大幅な縮小は考えられず、億単位の削減は困難

③ 学校施設整備計画全体への影響

学校施設は、昭和 40 年代から 50 年代に建設されたものが多く、青堀小学校以外の施設も老朽化が進んでいる。今後、学校施設の多くが大規模改修や建替えの時期を迎え、多額の費用が必要となることが見込まれる。

このため、児童が一番過ごす時間が長く、一番好きな場所→教室(校舎)の整備を最優先としたい。

《スケジュールの見直し後》

いちどき建設(C 案)から ⇒ 先ず校舎建設、以外は将来(B 案)に変更

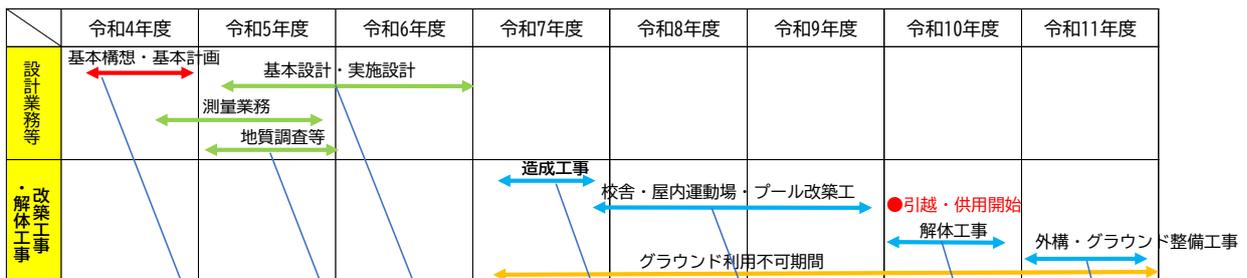
※ B案、C案：第1回資料5-2参照

校舎は 令和9～10 年度に建設

屋内運動場・プールは 将来、検討

※屋内運動場及びプールは、現在の施設に必要な補強・修繕を行い使用します。

当初の想定スケジュール



見直し後の想定スケジュール

